

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム	No.14 森林×防災
学校名	宿毛市立山奈小学校
学年	4年生
児童数	18名（1人欠席）
実施場所	学校の校庭
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境を守るために、森林の大切さについて学ぶ ・海や川は、山の持つ働きによって保たれていることを学ぶ ・森林や川のおかげで、肥えた土壌が作られていることを学ぶ ・森林が生み出すものから、人にとって有効に活用できるものを生みだしてくれていることを学ぶ
実施教科	総合的な学習の時間
関連教科	社会 理科
持ち物	<p>お米（1人1合）、軍手、うちわや下敷き、水筒</p> <p>学校が準備したもの：一輪車（薪を集めるためのもの）、ブロック、カレー材料と調理道具、紙皿、スプーン、長机、椅子</p>

実施項目	森林の活用と防災
対象プログラム	No.14 森林×防災
所要時間	210分（昼食時間含む）
実施内容	<p>（山のお話 20分、薪採取・準備 70分、火起こし炊飯 60分、昼食 45分、後片付け 15分）</p> <p>四万十市で木工や林業をされている宮崎聖さん、(株)かわらかつこの岩瀬さんを講師に招聘。挨拶や自己紹介の後、高知県の森林率や地域に関わる山のお話、災害時の森林活用についての話がされた。</p> <p>学校裏の森林で枯れた杉の葉や枝など、薪になる材料を一輪車2回分集め、4班に分かれて炊飯の準備を行う。</p> <p>竹でご飯を炊く方法、薪のくべ方の指導を受け、火を点けた後は、枯れ葉、小枝、太い枝を使い分け、火の様子をうかがいながら絶やすことなく焚き続けた。炊きあがった竹ご飯にカレーを注ぎ、昼食をいただいた。</p> <p>終わりの挨拶と感想を述べ、片付けを行った。竹は先生が燃やして処理を行う。</p> <p>生徒の声：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか火が付かん ・目が痛い！ ・(火が)怖い ・火をつけるのに忙しかった。 ・枝を入れたりするのが大変だったけど、みんなで協力してできたし楽しかった

た。

講師からのお話：

身近にどのような薪があるか、また山が防災につながることを学んでほしい。この地域は地震による津波の心配はないが、海の地域から逃げてきた人たちの避難場所となり、炊き出しなどを行うことになると思う。竹はご飯を炊くこともでき、そのままお皿として使え、その後は燃やせばゴミも出ない。薪をくべるのもお米を炊くのも難しいと思うが、災害が起きた時には今日の体験が活きるので思い出してほしい。

実施風景



補足
その他、プログラムの
特徴

学習のまとめでは、感想を書くだけではなく防災クイズ作りを行い、児童がクイズを作ることによって、学習を十分理解し、知識を伝えるという工夫がされている。

年間の流れでは、1学期に四万十川での体験を通して山・川・海のつながりを学習し、2学期で森林の活用と防災を学習、3学期には全学年で学習発表会を行っている。